

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370300677		
法人名	医療法人 愛生会		
事業所名	グループホーム 愛生 5F		
所在地	熊本県人吉市二日町22番地		
自己評価作成日	平成25年12月11日	評価結果市町村受理日	平成26年 3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アクシス		
所在地	熊本県熊本市八幡9-6-51		
訪問調査日	平成26年2月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人吉中心部の病院建物4階、5階を利用して作られたグループホーム愛生は、1階に外山内科があり、利用者様の体調管理を、3階にある訪問看護ステーションと連携している。また急変時の対応が速やかに行われるために、ご本人様やご家族様にも安心していただいている。施設内においては、季節を肌で感じていただけるようにバスハイクを行ったり、健康体操・嚙下体操・歌など毎日行い健康に努めている。また、認知症の進行予防にくもんの学習療法を取り入れ利用者様とのコミュニケーションを深めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所がある建物は、1階に事業主体である医療機関、3階には訪問看護ステーション、その上の4・5階がグループホームとなっています。夜間の往診や緊急時の対応等、速やかな連携が可能で、利用者にとっても家族にとっても大変心強いと思います。また事業所は、認知症の進行予防にも力を入れています。学習療法や回想療法を採用し、簡単な計算や読み書き、数字合わせ、また写真を見ながら昔を思い起こすことで、進行を遅らせる取り組みを行っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝、4階・5階合同で朝礼を行う前に理念の復唱を行っている。復唱することで、再確認を行い、それを現場に活かす様に努めている。	事業所は、基本理念として「尊敬、自立支援、共生」を掲げている。朝礼時に理念の唱和を行い、基本の再確認と実践への取り組みを新たにしている。また、誰からも見やすい場所に理念の掲示を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市のイベントなどに参加したり、ボランティアスクールを受入れることで子供たちとの交流を図ったり、ボランティアで、歌や踊り、メイクアップ教室、華道、人吉別院よりお坊さんに来ていただき法話を聞いたりしている。髪など伸びてきた時には、近くの理美容室へ出かけている。また冬の時期になると落ち葉が落ちるために地域の掃除を行っている。	市の主催で行われる夏祭りや多目的ホールでの催しには、事業所として取り組んでいる。また、小・中学生を対象にしたボランティアスクール、歌や踊り、メイクアップ教室、華道、法話等々、地域の方々にも来て頂いての利用者との交流にも、積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で介護の相談等あれば相談に応じている。また、利用者家族・入居希望者などの介護の相談などにも対応をしている。また、個別に相談があれば、在宅にて対応もしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの利用者様の状態報告や行事報告を行い、その中で改善などの意見があれば、それを現場に活かせるように努力している。町内会長からは町内のイベントなども報告され、イベントに参加することにより、地域の方との親睦を深めている。	運営推進会議は偶数月の第3水曜日に行われ、市の担当者、町内会長、老人会長、民生委員、地域包括支援センター職員等が出席している。利用者の状態や事業所の取り組みについて報告し、意見やアドバイスをもらっている。また町内会長からは、事業報告があったり、市の担当者からは、感染情報等について話しが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で、市の担当者からインフルエンザやノロウイルス等の感染情報や介護保険情報等を得たり、利用者様の状態にて分からない時はアドバイスをいただいたり、また、利用者様の介護更新手続等で市役所へ行った時、色々問題があれば、相談をしている。	運営推進会議への出席もあり、市の担当者との関係作りには力を入れて取り組んでいる。介護更新手続きなどは、市役所に出掛けており、判断に迷ったり、分からない点等があれば相談を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、研修会などでしっかりと理解をさせ、利用者様が不穏ある時は、常に側に寄り添い、対応を行っているために、しばらくすると利用者様も落ち着かれるため、身体拘束には至っていない。	事業所での研修会を毎月行っており、市役所が行う研修会にも参加し、身体拘束の具体的な事例や弊害について学んでいる。行動を束縛しないように心掛け、常に全体を見守り、危険防止と身体拘束のないケアに取り組んでいる。	

グループホーム愛生

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止については、研修会などで学び、実践されている。言葉の語気が少し強いと感じる場合にはその都度注意を促し、虐待につながらないように指導を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護も成年後見制度も利用者様が実際にご利用されているので、制度に関し理解をし、取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い本人様や家族様が理解・納得していただいた後に契約を行っている。また、介護保険が改正されて利用料等に変更があった場合にも、説明を行い、書面にて同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望などあれば、運営推進会議でも報告し、それらを運営に反映するようにしているが、現状は意見や要望は聞かれていない。外部評価でもアンケートなどあるが、その時も情報は施設には入ってこないことをお伝えし、思われていることを書いていただく様をお願いしている。	相談窓口や第三者苦情処理機関のポスターも掲示し、意見や要望、また苦情の収集に努めている。現在までのところほとんどないということである。	利用者家族からは、なかなか言いにくいと思います。これからも満足することなく、意見や要望、また苦情などの出しやすい環境作りに取り組んで欲しいと思います。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等で運営について意見等を聞いている。また、終礼時の申し送りや、日々の業務の中でも相談があれば聞くようにしているし、改善すべき点は、話し合った上で改善し、取り組んでいる。	会議の中でも、意見や気づきを聞く機会を設けている。終礼時の申し送りや、日々の業務の中でも、聞く体制を整えている。また、職員からの聞き取りでも、話しやすい環境であることが伺えた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給、福利厚生、など職員が働きやすいように努めていただいている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は職員がスキルアップできるように奨励されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修などに参加し、他の施設のスタッフなどと意見交換をする事により、自分の施設の見直しなどを行い、サービスの向上に努めている。施設内でも外部から講師を呼んで接遇マナー研修なども行っている。		

グループホーム愛生

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に利用者様に耳を傾けて、本人様に安心していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時や、契約時においても、家族からの情報や要望等を聞き、少しでも対応できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様やご家族様の要望を聞き、リハビリが必要であれば、リハビリへ送迎し、眼科や歯科等も基本家族対応であるが、家族が出来ない時には、施設の方で対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや台拭き等出来ることは、お願いをしている。また身体介助もすべて介助は行わず、出来ることはしていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が遠方におられる方が多く、施設でほとんど行っていて、施設へ来られることもめったにない為に、毎月のお便りにて家族との関係を保っている。また大きなイベントの時にも声掛けをし、出席を促している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設への来訪はいつでも受け付けている。最近も近所の方が入居様を訪ねて来られました。また、馴染みの場所は、青井神社で、初詣には全員出かけている。	事業所として、友人・知人など馴染みの人の来訪を歓迎しており、最近も近所の方が来られている。ただ、全体的には、家族の方がほとんどのようである。また、初詣で参拝する青井神社は、どの利用者からも喜ばれているようである。	
21		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	比較的におとなしく、入居者同士の話も合わず、スタッフが間に入り、関係を取り持つ。		

グループホーム愛生

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了するときは、ほとんど死亡退居の場合が多く、その後の家族との連絡は、取れていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	いろんな思いや希望を訴えられない入居者様が増えてきていますが、ゆっくり耳を傾けながら対応をしている。	思いや希望をうまく表現できない利用者が増えてきているようで、事業所では、学習療法や回想療法を取り入れており、簡単な計算や読み書き、数字合わせ、また写真を見ながら若かりし頃への回想を通じて、認知症進行の抑制と思いや意向の把握につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様より得られる情報は少なく、家族様からの情報が主であるが、基本的な情報であるのでしっかり把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、リーダーは、夜勤者からの申し送りやバイタルチェックで入居者の状態を把握し、その情報をもとに、一日の流れを把握しながら、進めていく。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議では、本人・家族・関係機関・計画担当者・介護職員等が参加し、それぞれ意見や希望など反映した計画を作成している。	カンファレンスを行い、本人・家族の希望や要望を確認し、また介護職員の意見も反映した上で、介護計画を作成している。また、必要に応じて、医師や訪問看護師の意見も取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々変わる利用者様の状態をしっかり捉え、ケース記録や申し送りノート等を利用し情報の共有に努め、実践を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	冬には乾燥肌になるためにクリームを塗布したり、排便がない人には運動したり腹部マッサージしたり、その時その時の状態に合わせ対応を行っている。		

グループホーム愛生

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントや施設全体での文化祭などに参加したり、ボランティアの方々に施設に来ていただき、交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関しては、本人様が入居前にかかっておられた医療機関との連携を行いながら支援する様になっているが、現状は同法人の医療機関へ変更をされている。ただ、眼科や歯科等専門医院の受診については、できるだけ家族に対応を依頼している。	基本的には、本人・家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。今現在は、全利用者が同法人の医療機関をかかりつけ医としている。また、専門医の受診については、家族の対応となっているが、やむを得ない場合や必要のない場合には、職員が付き添うこともあるようである。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体の傷や体調不良時など常に入居者様に変化ある時は訪問看護へ連絡を入れ訪問して頂いたり、電話で指示があったり対応をしている。また、週1回の訪問では、入居者様の全員の状態を見ていただいている。毎日訪問看護ノートへ一日の様子を記録して訪問看護へ提出し、情報の共有を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	月1回の管理運営委員会にて病院との情報交換を行ったり、病棟のソーシャルワーカーと連絡を密にし入院した場合の入居者様の状態把握に努めている。また、外来看護師や病棟看護師とも連携を密にし情報を共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、ドクターの方より家族へ病状の説明や今後についての話し合いが、介護スタッフも含め行われている。それに基づき計画の見直しを行い、入居者様が一番良い状態で過ごしていただけるように支援している。	重度化した場合は、医師より家族への説明が行われている。また看取りについても、事業所の方針として行う方向である。現在看取りに備えて、内部研修や外部研修でスキルアップに取り組んでいる。この場合も、医師より家族への説明が行われ、理解を得られることが要件のようである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については、施設内外の研修に参加すると共に、フローチャートを作成し、日々確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間はどうしても限られたスタッフで全員を見なければならず、対応が困難。夜勤に入る時に、火災のシュミレーションを行い、放送設備や通報設備の訓練を行っている。	避難訓練は、1階が医療機関となっており、合同で行われている。事業所は4階と5階になっているので、ベランダ避難を想定したものととなっている。また、夜勤に入る前に、火災のシュミレーションを行い、放送設備や通報設備の取り扱いについて確認を行っている。	運営推進会議を利用して、地域の協力体制作りにも取り組んで欲しいと思います。また、非常時の備蓄についても検討をお願いします。

グループホーム愛生

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いに対しては、常に注意を促している。トイレや入浴時なども出来る限りプライバシーを確保できるように指導し取り組んでいる。	毎年、勉強会を行っている。管理者からは、特に言葉使いについての指導が行われている。職員からは、笑顔の出るケア、利用者を自分の親と思って接すること、言葉が出なくても目を見ながら支援する事などが尊厳につながるとの意見が聞かれた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活をする中で、いろんな訴え等があり、時には興奮して訴えられる場合もあるが、側に寄り添い話を聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には一人ひとりのペースを大切にすべきことだが、スタッフの人数を考えると一人ひとりのペースを支援するのは、厳しい状態。業務の見直しが必要かと思われる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪が伸びてきた時は、美美容室へ行ったり、施設内においては、出来るだけ同じ服にならない様に心がけている。また爪が伸びている場合は、爪切りや耳かき等を行う。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、食事の準備はほとんど入居者様とは行っておらず、手伝っていただくのは、台拭きやエプロン洗いをお願いしている。	現在、調理に参加される利用者はおられないようである。食材は専門業者が納入しており、職員が調理を行っている。美味しく食べて頂くよう、量や形態など、個人対応を行っている。また毎月、給食委員会を開いて、改善に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては、管理栄養士のもとで、メニューを作成し、提供している。水分量については、毎食後とおやつ時にチェックシートにて管理し、少ないようであれば、飲んで頂くように促している。また、糖尿病や腎不全などの病気の状態に合わせて調理の内容も変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは行って、夕食後は、洗った後、洗浄剤を入れて洗浄している。口腔ケアは、ご自分で出来る人には、お願いしている。		

グループホーム愛生

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導を行い、また訴え等あれば随時対応を行っている。全介助の利用者様もトイレへ誘導を行い二人対応にて介助を行っている。	完全に自立している利用者は2名で、その他の方は、定期的な誘導や、訴えがある際の誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。また、そわそわする、立ち上がろうとする等の個人的な特徴にも注意を払い支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取量や運動を適度に行い、また、トイレにて腹部マッサージを行っている。それでも排便がないときは、下剤等を服薬している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様が高齢になるほどADLも低下し、入浴もスタッフ1人では、対応が困難になってきていて、時間や曜日を決めての入浴となる。その中で、入浴時はゆっくりとお湯につかって頂ける様あまり急かせない様に気を付けている。	回数は、週に3回を予定している。利用者のその日の体調や希望に合わせて、ゆっくりお湯に浸かってもらうよう支援している。利用者の高齢化で、ADLが低下してきている事もあり、安全にゆっくり入浴できるよう、リフトも備えている。また、ゆず湯やしょうぶ湯、入浴剤の支援も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後車椅子での座位保持が長時間困難な人の場合、居室にて休んでいただいている。またその他の入居者様には、足を拳上し、ゆっくりした感じで休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については、利用者様の状態により、処方かわるので、前回とのチェックを行い、薬の変更がある場合は、服薬チェックリストへの追加・変更を行い、また服薬時は間違えがないように、二人のスタッフが確認をして服薬を行う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	タオルたたみや、近所への外出、レクリエーション、誕生会、華道、法話、メイクアップなどの提供、おやつのお茶の他にも、紅茶やココア、ジュースなどの提供を行い、気分転換を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日など近所の散歩へ出かけている。また、散髪や買い物等あれば一緒に出掛けていて、入居者様も大変喜ばれている。	外出希望は少ないようだが、近くの床屋まで散歩がてらに出掛けたり、日用品等の買い出しに出かけることがあるようである。季節ごとの外出支援は計画しており、体力などを考慮し、効率的な支援に取り組んでいる。	人吉城跡や公園等、すぐ近くに恵まれた環境もあり、リハビリを兼ねた外出支援を工夫して欲しいと思います。

グループホーム愛生

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設管理の為、なかなか、利用者様がお金を持つ事が出来ない状態だが、あるとすれば、祭りの時の福引きなどを交換するときに100円くらい持って行く。また、神社参拝時も10円程度使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話は引継ぎをしているが、こちらからの電話は、家族から拒否されたケースもあり、緊急時以外や必要時にしか電話はかけていない。手紙等については、今学習療法にて俳句を作っており、それを毎月のお便りと一緒に郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感ということでは、お花の先生に来ていただき(月1回程度)生け花を行い、その後は玄関等に飾らせていただいている。日中はアロマを使用している。	事業所は5階にあり、4階同様、明るく穏やかな雰囲気です。また壁面には、飾り付けや、利用者の写真が貼ってあり、和やかな雰囲気です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では仲良く話などされています。又、1人になりたいときは、居室へ行かれて過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ家で使用していたタンスなどを持ってきていただけるようお願いしているが、利用者様の状態では、家具など置かないケースがよい時もある。	ベッドは事業所で備え付けられている。家具や調度品などは、それぞれの利用者で対応されている。思い出の写真や家族写真等を貼り、部屋作りをされているようである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーであり、手すりをつけて、歩きやすいようにしている。又トイレや歯磨き、居室等は表示をしている。		